Lesson 4

比較放送論

放送の歴史と未来を考究し、放送の変革期に役立てる

名古屋大学大学院

国際言語文化研究科
国際多元文化専攻
メディアプロフェッショナルコース

河村 雅隆 教授
名古屋大学大学院
国際言語文化研究科

★かわむら まさたか
1975年東京大学経済学部卒業、同年日本放送協会（NHK）に入局。報道局報道番組部、特報部などで主に「NHK特集」を制作。ヨーロッパやニューヨークなどの海外経験が豊富。2010年より名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授に就任。著書に『ドキュメンタリーとは何か～テレビ・ディレクターの仕事～』『国家が溶けていく～多民族国家フランスの苦悩～』など多数。

1 今日のテーマのレジュメを配布し授業がスタート

河村教授が用意したレジュメに沿って授業が展開される。
この日のテーマは「ラジオがリアルタイムで伝えた第二次大戦前夜の欧州情勢」。

放送の歴史を単純にたどるのではなく、社会の動向、思想、文化、人の価値観から読み解く点が特色。

ココがポイント！

2 放送の歴史を鳥瞰できる視点を持つ

講義内容を深められるように、河村教授は独自に作成した放送に関する歴史年表を、予め院生に配布している。この歴史年表は18世紀後半（アメリカの独立）からスタートし現代まで続くが、過去からの歴史が現在に直結していることが、授業の進行につれて分かってくる。

歴史年表は、放送の歴史を鳥瞰するだけでなく、授業の鳥瞰図にもなっている。

ココがポイント！

大局的な視点と比較の視点から放送の歴史と未来をひも解く

放送という、時代の影響を強く受けるメディアが、どのように成り立ってきたのか、その要因と背景を探ることが、この授業の目標になっている。比較という視点を持って、多面的に放送とは何かをとらえていく。

「放送とは、流れる水の上に字を書くようなもので、限りなく今という時代に制約されているメディアです。そうした放送の本質を考えるためには、今という時代からの考察だけでは限界があり、放送がどこから来て、どこへ向かうのかを大局的視点を持つことが基礎になります。その上で、比較の視点を持って、多面的にとらえていきます」と河村雅隆教授は授業の目的を話す。

マスメディアは20世紀に大きな発展を見せたが、その発展の様相は国ごとに異なった。中でも放送の発展の基軸となった米国では、放送はあくまで「民間産業」であり、「公共放送」が存在感を示してきた日本や英国とは大きく異なる。そのため各国における放送の発展過程をとらえることは、日本における放送の特徴を浮き彫りにすることにつながる。

授業では、放送の歴史を縦軸に、日米英などの比較を横軸に取って検討することで、放送を多面的かつ立体的に理解していく。

「放送の発展は時代に恵まれた偶然だったとも言えます。しかし、その黎明期、つまりラジオ放送が始まるか始まらないかの数年において、番組内容や放送事業のあり方、政府・軍事・新聞との関係、表現の自由の問題など、まさに現代に直結するテーマが出そろっていることに驚かされます」

受講者には海外留学生が多く、各国における放送事情やマスメディア動向についても確認することができ、より広い視野から議論している。

また、マスメディアは共通の関心を持った大衆があってこそ成り立ってきたが、その肝心の大衆が解体しつつある今、放送とマスメディアのあり方は大きく変わっていくことは間違いない。

「すぐに役に立つことは、すぐに役立たなくなりがちです。そこで歴史や政治、経済、文化などの知的な基礎体力の養成につながるように授業内容を工夫しています。長く役立つ力を備えた放送人・ジャーナリストが巣立っていくことを願っています」

3 エドワード・マローの実況内容から放送とジャーナリストの役割を考える

米国CBS放送のジャーナリストで、後にケネディ大統領のブレーンともなったエドワード・マローの実況内容から、放送とジャーナリストの役割について英語の文献を基にして理解する。

4

河村教授は、「世界の国々や歴史にも関心を寄せてほしい。知らないことに興味を持つことはマスメディアを学ぶ上で欠かせない資質です」と考えている。

5 語学力の養成にもつなげる

世界の放送事情を比較するため、英語やフランス語の資料を学ぶこともこの授業の特徴。

6 ヒトラーのウィーン入りの映像を分析する

歴史的な瞬間をとらえた映像だが、分析してみると緻密に計算された映像であることが分かる。カメラが大胆に移動しながら撮影していること、強い印象を与える構図が採用されている点に注目する。

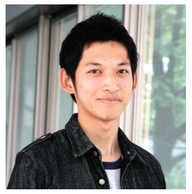
7 ナチスドイツはどうして台頭できたのかを検討

ナチスドイツはどうして台頭できたのか、なぜあそこまで傍若無人にふるまうことが可能だったのか、意見交換。

在学生の証言！

国際言語文科研究科
国際多元文化専攻
メディアプロフェッショナルコース　1年
江 康慧さん（23歳）

私は新聞の未来に関心があり、日米中の国際比較も含めて新しい新聞のビジネスモデルについて研究しています。この授業は、放送の発展の過程を深く広く学べるため、新聞のこれからを考える上で欠かせない視点と分析力を身につけられると考えて履修しました。先生との対話を通して、ジャーナリストとしての心構えを学べる点も魅力です。



国際言語文科研究科
国際多元文化専攻
メディアプロフェッショナルコース　1年
細川 大地さん（22歳）

ヨーロッパの環境政策に対するジャーナリズムの役割について研究しています。この授業は、歴史という時間軸と、世界各国の放送事情を比較して学べるため、放送、ひいてはメディアの役割を深く知るのに役立っています。河村教授が語る歴史的事象の背景事情がためになり、多様な視点からメディアを学んでいます。

名古屋大学大学院 国際言語文化研究科

国際言語文化研究科は、日本言語文化専攻、国際多元文化専攻、高度専門職業人コースから成り、国際多元文化専攻には、メディアプロフェッショナルコースを開設している。中日新聞社、NHK、東海テレビ、電通などの協力のもと、理論と実務の両面にわたる知識を備え、現代社会で活躍し、次代に向けた変革をリードできる人材の養成を目指している。